

# おしゃべり通信

No. 256 R3. 3. 15 発行 如春会 浦田医院



子どもの将来の力に！  
注目されている「非認知能力」とは☆

IQや学校のテストのように数値化できる「認知能力」に対し、目に見えない感情や心の働きといった数値化できない能力を「非認知能力」といいます。例えば、自分で目標を決めて物事に取り組める、まわりの人と円滑にコミュニケーションができる、自分を大事に思えるなどということ指します。いくら成績が良くても、「非認知能力」が低いと、忍耐力が足りなかったり、周りとうまく折り合いを付けられなかったり、コミュニケーションがうまくできなったりするなど、社会に出てから柔軟に対応し、くじけることなく対応することが下手になる可能性があります。

逆に、「非認知能力」が高い人は、始めは知識不足だったり経験不足だったりしても、周囲の意見を取り入れて学ぶ意欲を持ち続けることができるなど、伸び幅は大きいと言えるでしょう。

## ① 意欲・意志力がある、何かに夢中になる力

意欲や意志を持った子どもは、自分がやると決めたら大人が思った以上に考えを巡らせ、想像したり、創り出したりすることができます。うまくできないときは、「なぜかな?」「どうしたらいいのかな?」と子どもなりに考えて解決しようとしています。また、好きなものに熱中すると驚くべき集中力を発揮します。



子どもが「やってみたい」などと意欲を見せたら、その思いを受け止め、応援してあげましょう。「親が教えなくても、いつの間にか、自分で本を読んだり、工夫したりするようになっていた」と親は言います。知的好奇心が刺激され、自分で知識を深めているのです。

## ② 自分のことを好きだと思える力

「自分はそのままの自分でいいのだ」と思える自己肯定感も「非認知能力」です。子どもは、いつでも一番身近な存在である親から愛されることがなによりも大事です。何があろうと、絶対に手を差し伸べてくれる、味方になってくれる人がいる、自分のすべてを受け止めてもらえる、と心の安定感を得て、自分に自信を持つことができ、周りを思いやる心の芽生えにもつながります。

「成功しても失敗しても、家族が自分を好きなことには変わりない」という気持ちがあるので、臆せずやりたいことに積極的にチャレンジできます。親子のスキンシップやコミュニケーションを大切にしましょう。



## ③ 自分の気持ちを前向きにコントロールする力

「気持ちをコントロールする」ということは、感情を押し殺して我慢をするということではありません。「嫌だな」と思う自分の心に向き合い、どうすればよい結果を得られるのかを考えて行動していくことをそういいます。

お友だちと一緒に遊ぶことは人と協力して何かを行う楽しさを知る絶好の機会です。人との関わりにはルールがあることや我慢を求められること、自分の意見を主張しなくては伝わらないのだ、という発見もあるでしょう。自分の思い通りに遊べないときがあっても、気持ちを切り替えていくようになります。いっぱい遊んだ子どものほうが、小学校以降の勉強に高い意欲で取り組む傾向にあります。



#### ④ 他者とコミュニケーションできる力

人と協働したり、人に思いやりをもったりする力も「非認知能力」です。一生を通じてさまざまな人と出会います。相手の気持ちを思いやりながら行動することが求められます。また、自分の意見を伝えることやリーダーシップを求められる場面もあるでしょう。人とコミュニケーションできる力はいくつになっても必要な力です。

「非認知能力」は、社会と関わり、生きていくための力、といえます。明確な成果としてわかりにくく、すぐ答えが出るものでもありませんが、発達段階にある幼児期に身につけば、その後の長い人生にとって、きっと役に立つでしょう。

##### ☺ 子どもをまるごと受け止める

「自分そのものを認めてもらっている」という自己肯定感は「非認知能力」の土台となります。

##### ☺ いろいろな遊びやお手伝いを日常的に行う

お手伝いは年齢に応じてさせましょう。そして、「ありがとう。助かったよ。」などと折に触れて感謝の言葉をかけましょう。子どもは自分の行動が人の役に立つことを理解します。

##### ☺ 子どもの好きなこと（興味をもったこと）をさせる

子どもが好きなことを見つけたら、まず否定しないこと。「好きなことをやる自分を応援してくれる」と感じた子どもは、自己肯定感を高めます。

みなさんは、子どもとの関わりの中でどのような声掛けをしていますか？ぜひ、お聞かせください。